

小児科この一年

小児科医長 矢野 公一

診療体制

平成12年1月から3月までは前年から引き続き瀧本副院長、矢野医長、大島医員、岡本医員の4人体制で診療にあたりました。4月から岡本医員は道立紋別病院に赴任しました。人手が足りないとの旭川医大小児科医局からの要請で、4～6月の3ヶ月が瀧本副院長、矢野医長、大島医員の3人体制となりました。特に大島医員には病棟を一手に引き受けもらい、忙しい時期をしのぐことができました。大島医員は札幌徳州会小児科医長として赴任し、7月から大島医員の後任として片野医員が函館日赤病院から、岡本医員の後任として佐々木彰医員が旭川厚生病院から着任し4人体制に戻ることができました。

一般外来は、毎日午前・午後とも2診体制で行い、込み合うときは3診としています。午前は瀧本・矢野、午後は瀧本、矢野、大島/片野、岡本/佐々木彰が担当しました。午後は予防接種も行い、1ヶ月検診は矢野、大島/片野、岡本/佐々木彰が担当いたしました。専門外来は、旭川医大小児科より出張していただき、神経・発達外来（沖助教授、宮本講師）、内分泌外来（伊藤助手）、心臓外来（津田助手）を1～3ヶ月に1回程度行っています。病棟診療は、主に大島/片野、岡本/佐々木彰が担当しました。院外業務は、乳幼児検診を瀧本、矢野、中川町のサテライト診療を瀧本が担当しました。また、年始には休日外来を行いました。

外 来

外来患者数は、平成12年12月現在で一日平均111人であり前年とほぼ同等の患者数であります。1, 2月にはインフルエンザの小流行がありました。

今年も中耳炎を合併する上気道炎患者が多くみられ、耳鼻科の先生には大変お世話になっております。また、溶連菌感染症に対する抗生剤の選択について、菌の感受性を含め検査科と共同研究中有ります（発表予定）。施設面では、充実した向かいの点滴室を有効に利用させていただいています。また、昨年作っていただいた子供達がすわって遊べる待合いのスペースも活用されています。

外来患者数が多くなるとカルテ整理を含め外来終了が遅くなり外来看護婦の皆さん、緊急検査をして下さっている検査科の皆さん、医事科の皆さんも終業が遅くなってしまいます。また、救急外来では小児科の患者さんが当直の皆様方にお世話になっております。この場を借りてお礼申し上げます。

病 棟

平成12年の入院患者数はのべ849人（一般小児741人、新生児108人）でありました。入院患者数は平成11年が812人（一般小児720人、新生児92人）であり、一般小児、新生児ともに増加しております。このうち市内在住患者が一般小児は454人（61%）、新生児は51人（47%）と市外からの患者が多くみられました。一般小児の入院は、肺炎135人、上気道炎90人、急性胃腸炎72人が上位を占めました。インフルエンザは24人でしたが幸いインフルエンザ脳症の発症はありませんでした。新生児では、低出生体重児は22人、呼吸障害が9人ありました。また、産科による胎児エコーで胎児水腎症と出生前診断された症例が2人ありました。

特記すべきは、鎖骨を欠損する骨系統疾患のCleidocranial dysplasia（CCD）の母子例で、転写因子であるCBFA1遺伝子異常を認めたこと

であります（矢野が学会報告）。また腎尿路異常症が相次いで入院したため、産婦人科、泌尿器科との共同研究として過去5年間の腎尿路奇形症例を出生前診断もふまえてまとめました（佐々木が学会報告）。また、虫垂炎の穿孔例を経験したことから外科との共同研究として過去5年間の小児虫垂炎をまとめています（片野が報告予定）。また、著明な甲状腺機能低下症を合併したSLE女児例を経験しました（矢野が報告予定）。なお、患児はエンドキサンパルス療法によりループス腎炎が改善しており、今後の予後の改善が期待されます（発表予定）。各科の諸先生の御協力に感謝いたします。

小児科は、新生児室を含め15床のベッドでやりくりしております。小児科はほとんどが急性疾患であります。このため肺炎、インフルエンザなどで入院が多くなる時期は、入院が必要な患者さんにしばらく外来で待っていただき、少しでも良くなった入院患者さんを早めに退院としてベッドを作っています。病棟担当医、看護スタッフは慌ただしい日々です。また、平成12年は481人の分娩があり、入院扱いにはならない健康新生児の診察にも力を注いでいることをお伝えしたいと思います。平成11年の分娩数448人に比べ平成12年は30人以上増加しております。このことは、少子化の中で当院が上川北部の周産期医療で重要な役割を担っていることを示しています。

設備関係で特筆すべきは、新生児室に携帯用の血液ガス分析測定器を入れていただいたことです。これにより、臍帯血ガス分析、新生児の血液ガス分析を病棟内で行うことが可能になりました。仮死の新生児が生まれたときなど、患児から目を離さずに検査を行うことができるようになりました。関係各位に感謝いたします。また、低血糖になりやすい新生児の血糖をより正確に測定可能な携帯用血糖測定器も購入していただきました。関係各位のご尽力に感謝いたします。また、コンピュータ化した退院時要約は順調に活用され、患者統計等に役立っております。

カンファレンスなど

月1回、産婦人科、病棟婦長、小児科でのハイ

リスク妊娠カンファレンスがあり、産科・小児科の連携を緊密なものとしております。また、外来および病棟看護スタッフとのミーティングを行い、より良い小児医療をめざしております。医事科の国沢さんには、小児科関連の管理料、再診料などについて今年も詳細な資料を作成していただき、外来スタッフとの勉強会をしていただきました。さらに、市立士別総合病院小児科とは合同の抄読会を毎月継続して行い、その後の飲み会では情報交換を行い密接な関係を維持しております。

研究活動

学会発表としては岡本が「過去5年間の当科における腸重積症13例の検討」、大島が「蛋白漏出性胃腸症を主徴とした尋常性天疱瘡の一例」、「副鼻腔炎を合併したHemophilus Influenzae type b (Hib) による細菌性髄膜炎の3例」、矢野が「CBFA1 遺伝子変異を認めたCleidocranial dysplasia (CCD) の母子例」、佐々木彰が「名寄市立病院小児科過去5年間ににおける腎尿路奇形症例について—出生前診断もふまえた検討—」を全国学会あるいは地方会で発表しました。

論文については、岡本が「当院小児科における過去5年間の腸重積症13例の検討」、大島が「急性限局性細菌性腎炎の1幼児例」を名寄市立病院病院誌に発表しました。また矢野が共著者として「母体由来のヒト抗マウス抗体 (HAMA) による新生児の見かけ上の高TSH血症に関する研究」を発表しました。

今後も、小児科から学会発表、論文報告を積極的に行っていきたいと考えております。また、矢野が名寄市立病院での救急医療講演会で「小児の救急」について市民の方々を対象に講演を行いました。講演する機会をいただきましたことを感謝しております。

まとめ

当院小児科は、病棟患者統計を見ても明らかのように、名寄市内のみならず美深、中川、幌延、枝幸、西興部など広い地域から患者さんが受診しています。名寄から稚内までの間にほとんど小児

科医がいない現状で当科の重要性をひしひしと感じております。少子高齢化の時代の波の中で、あすの日本を担っていく子供達が健康に育っていきけるように医療の面から貢献していきたいと思って

おります。新しい世紀を迎え、医師・看護婦が一丸となって小児医療に邁進していく所存であります。今後とも皆様の御協力をお願い申し上げます。

産婦人科この1年

産婦人科医長 川村 光弘

地域医療をめぐる問題

平成12年においても、当科の扱う地域における母子医療の状況には、大きな変化は見られなかった。上川、宗谷管内において産婦人科診療に従事する固定医は、わずか7名であり、うち3名が当院の職員である。他には市立稚内病院に2名、市立士別病院に2名が従事しているのみで、分娩という日常診療に対する診療体勢の希薄さは、全く改善されていない。現在旭川医大、旭川厚生病院を中心とした周産期3次センターの結成と、そこを中心とした医療システムの構築が検討されはじめているが、旭川市を除けば、この広大な道北医療圏における周産期医療システムの問題は、一次診療施設の不在と、そこから生じる地域住民の健康危機に尽きると言って良い。

広域医療行政を行うべき道や国が無策のままである以上、また各大学の産婦人科教室に、この問題に取り組む積極性が見られない以上、問題に直面している3施設が、中でも当科が中心となって、地域的な解決策を講じて行かねばならないものと考えている。

人 事

退職 伊藤秀行 00.03.31 旭川医科大学へ

赴任 佐々木禎仁 00.04.01 釧路労災病院より

分 娩

2000年の分娩総数は481件。前年より33件増加した。帝王切開は53件であり帝王切開率は11%と低い水準を維持した。地域別には名寄市在住者が256件で全体の53%を占め、一方周辺3町(下川、美深、風連)は100件であり、南宗谷4町(枝幸、浜頓別、中頓別、歌登)は85件であった。詳細は表1に示す。

手 術

2000年の手術は266件であり、前年に比べ20件増加した。内訳は表2に示す。

地域医療支援事業

中川町立診療所における出張診療は、本年も毎月第3水曜日午後より行った。来院患者数は平均12人であり、特に名寄までの通院が困難な高齢者や、中川以北(天塩町、豊富町)の居住者にとっては利便性の高い事業となっている。